

婚活で町おこしを

答 商工会や観光協会でプロデュースが可能か検討する



上原喜代子 議員

問 本町の30代から50代の未婚者はどのくらいか。

副町長 平成27年度の国勢調査データでは、30代から50代の1万4815人のうち23・6%の3498人である。

問 近隣市町村と比較して本町の未婚率が多いのか。

副町長 本町の未婚者数は、23・6%で、近隣市町村が24・1%となっている。

問 婚活支援で政府予算倍増とのことであるが、本町でも婚活パーティーを事業化し町おこしができるのか。

副町長 商工会や観光協会がプロデュースすることが可能か検討する。

問 町おこしは基本的には「ここできできない」ということに尽きる。イオン南風原店で行われた南風原物産展では、艶やかな緋のドレス姿で人前結婚式が執り行われた。ふるさと博覧会では、町長を

先頭に緋の羽織袴でファッションショーもあった。題材はそろっているのに関連付けられていない。継続事業として展開し、観光協会の自立に向けてすることはできないか。観光協会にはケータリングの他に収益の多い事業があるか。

産業振興課長 模索している段階で収益性を維持できるものはまだ確立できていない。

問 婚活を町おこしとし、事業化するための専門的なコーディネーターの養成を行っていく計画はあるか。

産業振興課長 プロデュースやビジネスモデルの確立のためのトレーニングは必要だと考えている。沖縄県等と調整して事業導入が実施できるよう頑張っていきたい。

問 婚活だけでなく収益性を考えた事業を検討したほうがいいのではないか。

産業振興課長 市場ニーズに適合し地域資源を活用した、経

済的波及効果を観光協会がどれだけできるのかに尽きるのではない。観光協会自身が自立して収入を得ることは、非常に厳しいと考える。しかし、各所に経済的波及効果をもたらすことは可能である。



町内の飲食店を食べ歩けるまちブラ